

経済学を変えることから考えよう

討論会「どうしたら政治は良くなるか」 2014.12.7 明治大学

独立研究者 塩沢由典

(0) 『貧者の一答』

①選挙 ②農業 ③協議経済 これらのうち、①と③についてあまり専門ではない。話題提供の意味で。ざっくりした説明。

(1) アベノミクス

3本の矢 ①大胆な金融政策 ②機動的な財政政策 ③民間投資を喚起する成長戦略

☆第一次的な「効果」(善悪の判断を含めず)

- ①為替レート 80円→120円(円の価値2/3に)、インフレ率?
- ②国土強靱化 建設業での人手不足(入札不成立まで)、外食産業での賃金率上昇
- ③規制改革 本丸?、新味がない・総花的。批判:「なぜ」かまで迫っていない。

☆選挙との関連

1年前:総合評価高 円安を無条件に歓迎→円安の弊害が語られる
今:問題点が見えてきた。
細かい点は、塩沢『今よりマシな日本社会をどう作れるか』参照

☆見えてきたこと

- ①金融政策の効果(新ケインズ政策) わたしの見誤り:①の狙い
A期待インフレ率を引き上げる vs. B為替レートの引き下げ
A 黒田さんの修正(2年間で2%)
B 為替レートの大幅切下げでも輸出が伸びない(原油価格低下で助かる)
国民レベルで学習するには(経済学者も、一般国民も) もう2年やってみる?
- ②財政政策(旧ケインズ政策) 一定の効果、旧自民党、弊害と方向違い
- ③成長戦略(新自由主義、サッチャー改革) 規制改革という方向そのもののまがいがいい

(2) 対策/対抗策

政党再編でなく、政策を軸に政党を育てる

☆なぜ、20年の停滞なのか

GDPは伸びなくてよいか。デフレ(定義、景気循環)なのか。
需要構造と就業構造を変える。参照『今よりマシな』
経済学:供給制約なのか(米主流)、需要制約なのか。
私の判断:将来不安と需要飽和の複合作用

☆具体的には

医療、介護、保育、教育 どの成長戦略にも言及、需要の伸び期待、実際効果なし。

商品としての特質：情報の非対称性(提供者と需要者との情報格差)、適切な制度設計

例：医療(吉田先生) 医療費抑制では医療分野は成長しない。

例：介護保険(2000年導入、社会的入院の解消)

2001~06への伸び率巨大 介護事業 56.2%、大分類「医療・福祉」でも伸び率 29%

介護士さんの待遇劣悪のみに目を奪われてはならない。

上の4領域では、基本的に同じことが可能

教育：教育費への公的支出(OECD諸国平均 80%、日本 43%)、質の問題(大学院教育)

☆経済政策の大きな思想転換(友愛の社会へ)

新しい政策群(方向性だけが見えている)を育てる=新しい政党を育成する

「税金を上げても、公的支出を伴う制度設計が自分達の得である」ことを国民が理解する

(3) 経済学の問題

現在の経済政策：経済学とそれに付随する経済思想の影響大。

新しい経済学を育てなければ、経済政策も変わらない。非専門家の役割もある。

☆現在主流の経済学：ケインズでもマルクスでもない。

新古典派、新しい古典派、ニューコンセンサスマクロ →供給重視(規制緩和)

一財モデル(需要構成・就業構造を考えない)→マクロ政策(金融政策、財政政策)

☆新しい経済思考、経済学を考えなおす

アメリカ：Institute for New Economic Thinking (G.Soros や多くの経済学者)

欧米：学生達の運動 Rethinking Economics Movement

2000年フランス、2011.11'Occupy'に連帯、EC10(Mankiw 教授)の授業ボイコット

Rethinking Economics Movement 2012 ドイツ・チュービンゲン大学から英・米他へ

標語 Demystify, diversify, and invigorate economics.

☆日本では

学生たちに同様の動きがない。

マルクス経済学の講義があるため？ 経済学を革新する力は？

ケインズ経済学 「ケインズに戻れ」で十分か。

価格理論(経済学の核)から変えることが必要

新古典派価値論から古典派価値論へ(マルクスは古典派価値論の一変種)

理論の問題(古典派価値論の欠落/弱点 例：国際価値論)

欠落は克服されつつある。